

麦類技術情報 No. 5

平成28年5月7日

麦類栽培者 各位

J A 営農支援課
大湊村麦類生産班

銀河のちからの後期追肥について

5月に入り、現在の小麦の生育は平年より5～7日程度早い推移となっており、出穂期を迎えようとしております。

銀河のちからを栽培されている方はパンや中華麺の原料として必要なタンパク含有量を確保するために後期窒素追肥をお願いいたします。

当初、ラジコンヘリで行う穂揃期の赤カビ病防除の際に薬剤と混和しての液肥散布を計画しておりましたが、ラジヘリのタンク容量では積替回数が極端に多くなることと、液肥の経費がかかり過ぎるため、下記を参考に各自で追肥して頂きますようお願いいたします。

1. 今後の肥培管理

出穂期から穂揃期にかけて、尿素でN成分3～4kg/10aを目安に追肥を行ってください。

なお、現在の有効莖数が600本/m²未満で葉色（SPAD値）が55以上であればN成分2kg/10aに減らして散布をお願いします。

- ほ場の出穂期とは、全莖数の4～5割が出穂した日です。
- ほ場の穂揃期とは、全莖数の8～9割が出穂した日です。
（穂揃い期は出穂期の1～2日後）

2. 今後の病虫害防除について

【赤カビ病】

ラジコンヘリによる1回目の小麦の赤カビ病及びうどんこ病の防除（シルバキュアフロアブル）は5月中旬を予定しております。2回目は1週間後にトップジンMゾルとスミチオン乳剤にて散布させていただきます。不明な点はJ A 営農支援課齊藤（45-3033）までお問い合わせください。